



「子どもの笑顔と安心感を育む 居場所づくり・絆づくり」

R5 第1回「子ども応援会議」が開催されました

地域ぐるみで子どもたちを健全に育むため、岐阜県では地区ごとに、学校関係者や青少年関係団体、社会教育団体等の代表者が集まる「子ども応援会議」を毎年開催しています。

今年度第1回の会議は、6月14日(水)に岐阜県立郡上北高等学校において開催されました。

今回は、中濃地域の学校関係者や地域の青少年・社会教育の関係者の方々に、同校の授業を参観いただいた後、各地の家庭教育学級の取組の紹介や同校の実践発表を受けて、高校生を交えた意見交流会を行いました。

【県の取組紹介】



第1回の会議では、岐阜県環境生活政策課の若森課長補佐から、家庭教育の位置づけや現在の家庭教育を取り巻く状況、地域における家庭教育支援体制について紹介があり、家庭教育学級の意義や重要さを確認し合うことができました。

<現在の家庭教育を取り巻く状況>

- ・社会が急速に変化していく中で、家庭環境は多様化し、約7割の保護者が子育てに悩みや不安をかかえています。
- ・不登校児童生徒数が、過去最多を記録し続けています。
- ・「進路変更」や「家庭の事情」から、「中途退学」をする高校生が増えています。
- ・携帯電話をもつ児童生徒が増えています。
- ・インターネットの使いすぎが「成績低下」と「授業中の居眠り」につながったと回答する中高生が多いです。
- ・「児童ポルノ事犯」の被疑者となる10代が増えています。
- ・中2は小5よりも「自分は価値ある人間だと思う」と答える割合が低くなっています。



子育てが「孤育て」になっている保護者の方がみえます

(子ども食堂が子どもの居場所、親の居場所になっている例もあります。)

子育ての負担が増えることで、児童虐待も懸念されます。



だからこそ今、子どもの健やかな成長のために、「家庭教育学級」の充実が必要となってきています。

【郡上北高校 授業参観】



授業参観の当日は、タブレット端末を活用した授業や、2人1組による対面形式の英会話の授業などが行われていました。

どのクラスも、生徒の皆さんが授業に集中し意欲的に取り組んでいました。

【郡上北高校 実践発表】



郡上北高の有尾校長先生より、同校の運営方針や、「郡上北高 地域と共に発展（KCD）プロジェクト」について発表いただきました。

同校では、ソーシャルスキル、課題解決能力、進路目標を実現する力を養うため、郡上市全域を学びの場（フィールド）として、様々な探究的な学びや実社会に即した学習活動を実践してみることがわかりました。

【生徒を交えた意見交流会】



「子どもの笑顔と安心を育む居場所づくり・絆づくりのために、自分たちができること」をテーマに行われた、子ども会議参加者との意見交流会では、生徒の皆さんが、積極的に自らの意見や将来の目標などを力強く語ってくれました。

「自分たちが元気になることで、地域全体が元気になる！」

「友達からの悩み事の相談を受けるうちに、悩んで困っている子どもたちの支えになりたいと思うようになった。高校卒業後は、大学で心理学を学び、将来はスクールカウンセラーとして、この郡上で仕事をしたい。」

【会議を終えて】

生徒のひとりひとりが、地域の一員としての思いを胸に、自己の目標に向かって取り組む郡上北高校。同校の就職希望者の約半数は地元企業に就職し、現在、多くの卒業生が地域の様々な分野で活躍しているそうです。

「地域からも期待されている学校です！」

生徒の皆さんの明るい笑顔がとても印象的でした。



家族で考える 大切な命を守るためにできること

家庭教育学級の取組紹介～関市立富野中学校～

富野中学校では、子どもたちを健やかに育てるために、学校と家庭、地域が手を取り合って教育活動が展開されています。

6月15日にPTA授業参観に続き、家庭教育学級の開級式が行われ、当日は、朝田校長先生のご挨拶に続き、防災講演会「大切な命を守るために、自分ができること」が開催されました。



【講演会の背景と目的】



今回の防災講演会は、数年前に大きな水害を体験した地域であることから、大雨シーズンの今、親子で共に防災について学び考える機会を作り、自分や家族の命を自分達の力で守っていけるようにしたいと考え、PTA 家庭教育学級委員会で計画されたものです。また、防災は地域全体で考えていくものであるため、今回の講演会が今後の地域を背負っていく生徒達にとって、真剣に地域の防災について考える機会となり、近所の高齢者への配慮などにもつながっていくきっかけになることを願い、開催されました。

【講演会の概要】



- <開催日> 令和5年6月15日(木)
<講師> 岐阜県庁 危機管理部 防災課
防災企画係 居初 美里 主事
<講演名> 「災害・避難カード」特別講座



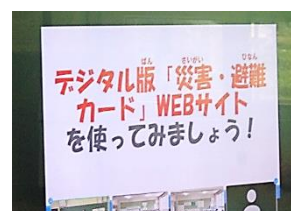
<講演内容>

大雨シーズンの今、命を守るためにできることは何か?みんなで考えよう。

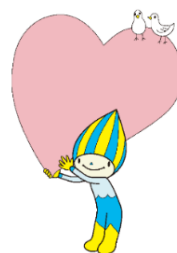
- 1 関市で起きた災害(平成30年の上之保豪雨)等の紹介

まさかこの地区で被害が出るなんて… 今、大雨が降ったら、自分の家や学校は大丈夫だろうか。

- 2 親子で、土砂災害や洪水のハザードマップを活用して、自宅や学校が安全か調べよう。
 - ・土砂災害が発生しないか。
 - ・大雨が降った場合、安全な場所はどこか。
 - ・安全な避難場所はどこだろう。
 - ・避難場所までかかる時間はどれくらいだろう。(自家用車、徒歩)
 - ・避難すると決めてから家を出るまでの時間はどれくらいか計算しよう。
- 3 自分の命を守るデジタル版「災害・避難カード」を作ろう。



【講演会の様子】



3年生の教室で行われた講演の内容は、他学年の教室にもオンラインで同時配信され、各教室では、親子で協力し合って調べたり、相談したりする姿が見られました。



親子でタブレットを活用し、関市のハザードマップを確認して、自宅や地域の災害の危険性について調べました。

「ハザードマップをしっかりと見たことがなく、今回初めて危険な場所が多くあることに気づきました。いつ災害が自分の周りに起きるかわからないので、家に帰ったら家族全員で避難場所などをしっかりと確認しておきたいと思いました。」



【保護者の感想】

- ・災害に遭った経験が年々薄くなりますが、梅雨の時期になると目の前の川の状況を常に気にかけて、すぐに避難行動がとれるようにしていきたいと思いました。今回、親子で確認できてよかったです。デジタル版「災害・避難カード」にも早速、家族で取り組んでみます。
- ・家の近くに土砂災害の看板がありますが、しっかりとチェックしたことがなかったので、子どもと一緒に確認できてとても勉強になりました。家に帰ったら、高齢の両親も一緒に、デジタル版「災害・避難カード」を作成してみます。

【取材を終えて】



今回開催された講演会型の家庭教育学級には、ほとんどの保護者の方々が参加されました。生徒と保護者が隣同士に座って「命を守るためにできることは何だろう」と、一緒になって考え、話し合う姿はとても印象的でした。